

○我有 満・桂 真昭・後藤和美・松岡秀道  
(九州沖縄農研)

【目的】

マメ科牧草は必須の飼料構成要素であり、九州沖縄・山口各県においては延べ 10 草種・21 品種のマメ科牧草が優良品種としてリストされている。自給飼料の高品質化に伴い、今後、重要性は更に増すと考えられるが、現在、暖地においてマメ科牧草の自給を意図した栽培事例は殆ど見られない。現状でマメ科牧草の栽培・利用技術を確立することは、暖地では難しい面があるが、一方で飼料自給力向上に直接的につながる技術である。そこで、栽培技術の基礎となる適草種・品種の情報を得るため、暖地適応性が高く有望と思われるマメ科草種の適応性を評価した。

【材料および方法】

試験地を高標高地（阿蘇外輪、標高 900m）および低標高地（西合志、標高 80m）に設置し、第 1 表の材料を供試した。

第 1 表 2 試験地で供試したマメ科牧草の草種・品種

供試草種	供試品種	高標高試験地	低標高試験地
ガレガ	Gale	○	○
バースフットレフオイル	普通種	○	○
シロクロハ	リベンデル		○
シロクロハ	ルナメイ		○
シロクロハ	フィア	○	○
シロクロハ	カリフォルニアジノ	○	○
アカクロハ	ホクセキ		○
アカクロハ	マキミドリ		○
アカクロハ	ケンランド	○	○
アルファルファ	ハーダス	○	○
アルファルファ	ヒサワカハ	○	○
アルファルファ	ツウワカハ	○	○
アルファルファ	タチワカハ		○
アルファルファ	ネオタチワカハ		○
アルファルファ	愛系 38 号		○
アルファルファ	BR897-5		○
アルファルファ	BR98-2		○
アルファルファ	WL-457		○
アルファルファ	SR-58-7		○
アルファルファ	TrT96-3		○
アルファルファ	TrT98-1		○
アルファルファ	LR98-1		○
アルファルファ	MLR982-1		○
アルファルファ	AS905-3		○

注) 高標高試験地: 阿蘇外輪標高 900m 低標高試験地: 西合志標高 80m

播種日は、高標高試験地 2004 年 9 月 11 日、低標高地同年 10 月 7 日、翌年 1 番草収穫日は、高標高試験地 5 月 27 日、低標高試験地 5 月 18 日、年間施肥量は、両試験地とも、N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O で 8:15:8kg/10a

(初年目)、6:18:12kg/10a (2 年目) とし、初年目に石灰 100kg/10a を施用した。試験区は、両試験地とも 1 区 0.75 m<sup>2</sup>、2 反復である。

【結果および考察】

播種翌年の 1 番草収穫時点で草種間差が明確になったため、今回は草種レベルの結果について考察する。

高標高試験地においては、バースフットレフオイルを除くマメ科草種の収量は低かった(図 1)。低標高試験地においては、各草種とも順調に生育し、特にアカクロハおよびアルファルファの収量が高かった(図 1)。

試験地間の比較では、バースフットレフオイルを除き、高標高試験地は低標高試験地より明らかに低収であった(図 2)。

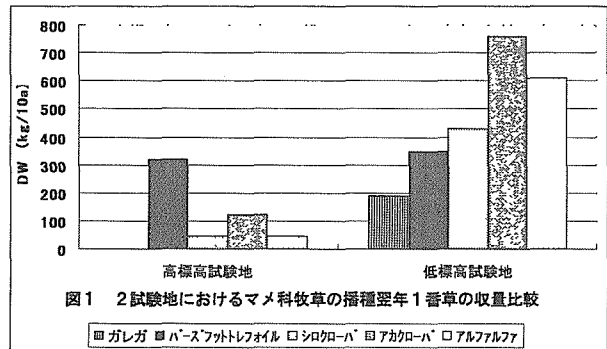


図 1 2 試験地におけるマメ科牧草の播種翌年 1 番草の収量比較

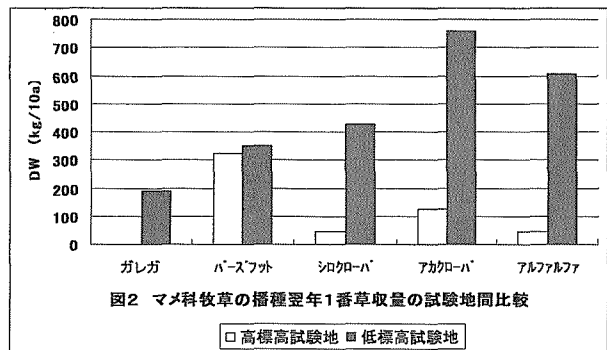


図 2 マメ科牧草の播種翌年 1 番草収量の試験地間比較

低標高条件における各マメ科草種の適応性は実用レベルにあると考えられる。今回供試した中で高標高条件で適応性の高い草種は、バースフットレフオイルと考えられる。高標高試験地におけるガレガの低収要因は、霜柱による抜根で枯死に至ったためであり、越冬前の生育量を確保できる播種期の検討が必要と考えられる。